

第1回災害廃棄物の受入に関する検討会の内容

北九州市が示した災害廃棄物の処理方法(案)

- 災害廃棄物の処理は、徹底的な安全管理のもとで実施されます。
- 放射能濃度及び放射線量を測定し、安全性を確認するとともに、モニタリングを実施します。

■全体の処理工程



石巻市

石巻市の災害廃棄物は、石巻市内の仮置場に集めて保管しています。震災から1年以上経ちましたが、ここに搬入できた災害廃棄物は、まだ半分程度です。



石巻市

災害廃棄物を仮置場から運び、機械と手作業で木くずや廃プラスチックなどの選別をした後、フレコンバッグに詰めて搬出します。その際に、放射能濃度と放射線量を測定し、安全性を確認します。

※フレコンバッグ…大型の資材搬送用袋



荷札(バーコードタグ)

船やトラックで北九州市まで運びます。検査したものが現地から北九州市に搬入されたかを確認するまで、荷札(バーコードタグ)を付けて管理します。



北九州市

・放射能濃度の測定
・放射線量の測定

工場から出た焼却灰を響灘西地区廃棄物処分場(若松区)に埋め立てます。排水の放射能濃度や敷地の放射線量を定期的に測定し、安全性を確認します。



北九州市

・放射能濃度の測定
・放射線量の測定

市内3ヶ所の焼却工場(新門司・日明・皇后崎)で家庭ごみと混ぜて焼却します。焼却灰や排ガスの放射能濃度、工場の放射線量などを定期的に測定し、安全性を確認します。



北九州市

市内の保管施設に荷札(バーコードタグ)で確認したフレコンバッグを保管し、その後トラックに積み替え、焼却工場に搬入します。

「災害廃棄物の受入に関する検討会」での主な意見

- 市民に分かりやすく、十分な情報提供が必要。
- 放射性物質の測定は、市民の方の不安を払拭するため必要に応じて適宜行うよう検討して欲しい。
- 市が基準としている放射能濃度(100ベクレル/kg)は、人体への影響を無視できる放射線量(0.01ミリシーベルト/年)を目安としているため安全。

検討会では、以上のような意見が出され、
試験焼却の実施について理解が示されました。
試験焼却の結果は、第2回目の検討会で報告され、
改めて意見をうかがう予定です。

5月1日に開催された検討会

